

平成11年夏

八重山地区で多発したレプトスピラ

平成11年9月1日の日刊に「西表島で“奇病”頻発、レプトスピラ病流行の疑い」という見出しの記事が掲載されました。日本におけるレプトスピラ症は、水田の改良や農業技術等の進歩によりその発生及び死亡者数は減少し今では稀少な感染症となってきました。しかし、沖縄県では現在も散発的に発生しており、当所においても毎年10例前後の検査依頼があり、本県では希少な感染症とは言えません。本症は、*Leptospira interrogans* による人畜共通感染症で、自然界では主にげっ歯類や野生動物が保菌しており、保菌動物の尿で汚染された水田や牧場等がヒトへの主な感染の場となります(図1)。

今回は、八重山地域の医療機関から平成11年9月から10月の間にレプトスピラ症の疑いで当所に検査依頼のあった23例(西表15例、石垣8例)の検体について、菌の分離同定及び血清抗体検査を実施しましたので、その概要をお知らせします。

1. 検査結果

今回検査以来のあった23例中15例が陽性と判定されました。菌分離と抗体両方陽性が5例、菌分離のみ陽性が4例、抗体のみ陽性が6例でした。陽性の血清型別は、*kremastos* 7例、*grippotyphosa* 5例、*pyrogenes* 1例、

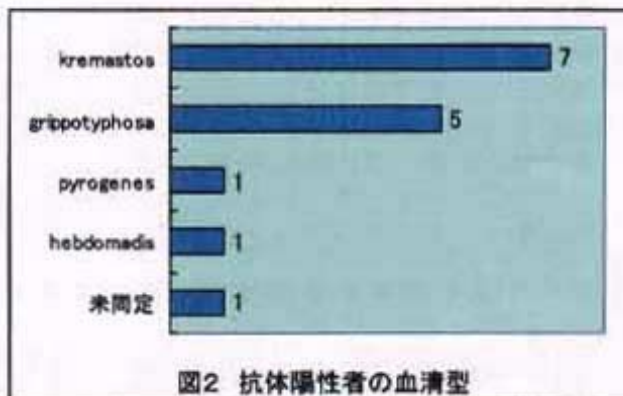


図2 抗体陽性者の血清型

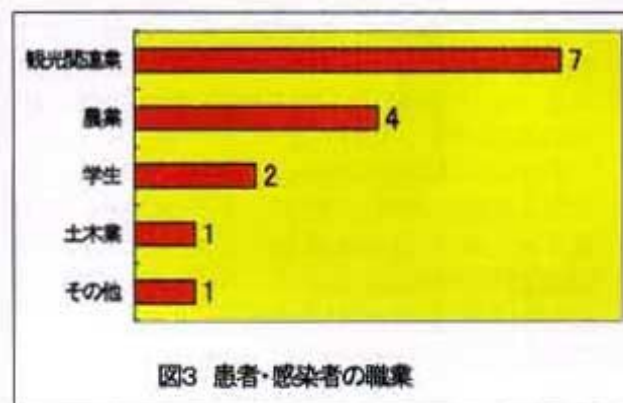


図3 患者・感染者の職業

hebdomadis 1例で、1例については現在のところ未同定です(図2)。今回の検査で検出された *kremastos* や *grippotyphosa*、*pyrogenes* は、本邦では沖縄県以外のヒトからの報告はなく、本県特有の血清型です。

2. 本事例の特徴と今後の対策

本県におけるレプトスピラ症は、毎年散発的に発生していますが、今回の事例の様に同一地域で同時期(平成11年7月から9月に発症)に多発した事例は多くありません。感染者を職業別に見ると、シーカヤックインストラクターやカメラガイド等の観光に関連した職業が7例で最も多く、次いで農業従事者4例、学生2例の順でした(図3)。以前の感染者の主な職業は、水田で作業をする農業従事者でしたが、近年は、レジャー産業に関連した川や池等での淡水との接触による感染者が増加しており、今回も同様な傾向でした。また、感染地域は西表島12例、石垣島3例であり、感染場所として最も多かったのは西表島の川での感染で、9例ありました。

今回の事例において、観光客への感染はありませんでしたが、地元住民および本県にとってこの疾病は大きな問題であり、早急に対策を取る必要があります。当面の対策としては、感染源を明らかにするとともに地元住民や観光業者に対する、レプトスピラ症予防の知識の普及啓発が肝要であると思われます。

(微生物室)



図1 レプトスピラ症の感染サイクル